

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/1be3883ff1d6475f3b3d557745370d36>

史実とフィクションに議論 川越宗一さんの「熱源」(北海道新聞 2020/01/16 05:00)

直木賞を受賞した川越宗一さんの「熱源」について、文学作品としての面白さや北海道のアイヌ民族とは異なる樺太アイヌに注目した点を評価する声が上がった。史実とフィクションの混在する記述が誤解を招きかねないとの意見もある。

作家の池澤夏樹さんは「白瀬轟(のぶ)の南極探検隊に犬の世話係として参加したことで知られる樺太アイヌの山辺安之助(やまべやすのすけ)を主人公とし、知られるかぎりのファクト(事実)を基準点として、その隙間を想像で埋めている作品だ」と指摘する。「友人で言語学者の金田一京助、ポーランド出身の民俗学者ブロニスワフ・ピウスツキも登場し、山辺が白瀬隊のパトロンだった大隈重信と会話する場面もある。一個の英傑の生涯を書いて、周辺の人々をも大きく動かし、フィクションの部分の作りも大胆で、先を追って読ませる力は充分ある」と魅力を語る。

樺太アイヌ語の監修などで取材協力した村崎恭子・元横浜国立大学教授も「これまであまり注目されてこなかった樺太アイヌにスポットライトを当てたことを評価したい。フィクションではあるが、実在した樺太アイヌの人たちを生き生きと描いた」と受賞を喜ぶ。

一方、ピウスツキ研究の第一人者の井上紘一北大名誉教授は「作品自体は面白いが、例えばクマ送りに山辺保之助ら主な登場人物と一緒に参加している場面などは事実ではなく、セヌ川に投身自殺したという説が有力なピウスツキが銃で撃たれる場面もある。特に重要なフィクション部分は解説などを加えるとういのではないかと話している。(中村康利)

<https://blog.goo.ne.jp/ivelove/e/a54347ba7e594bd8a23582c081557c91>

アイヌ遺骨 返還訴訟ドキュメンタリー 海外映画祭で受賞(毎日新聞 2018年8月11日 08時42分)

北海道日高地方のアイヌ民族の有志団体「コタンの会」と市民団体「北大開示文書研究会」が、北海道大に遺骨返還を求めた訴訟を追ったドキュメンタリー映画「八十五年ぶりの帰還 アイヌ遺骨 杵臼(きねうす)コタンへ」が、7月末にスペインで開催された「マドリッド・アジア国際映画祭」で、最優秀ドキュメンタリー作品賞を受賞した。

映画は、浦河町杵臼地区の墓地から掘り出された親族の遺骨の返還を求め、北大を訴えた札幌市の小川隆吉さん(82)らの映像を中心に、提訴前から返還された遺骨の埋葬までを追った。

2012年9月の提訴前に小川さんらが北大を訪問したが、学長との面談がかなわなかった場面や、16年3月の和解後の記者会見の様子などを記録。また原告の一人で、訴訟中に亡くなった城野ロユリさんが、アイヌ歌謡を歌った映像も収録している。

北大開示文書研究会に所属し、監督・撮影などを務めた札幌市の映像制作者、藤野知明さん(52)によると、上映後、イギリスから来たドキュメンタリー監督に「日本にこんな問題があるなんて知らなかった。大きな人権上の問題だ」との感想をもらったという。藤野さんは「この受賞は、先祖の遺骨返還のため活動しているアイヌの方々を勇気づける」と話した。

25～26日には、東京で開催される「第11回シュレー大学国際映画祭」、9月6日には福岡市で開催される「福岡インディペンデント映画祭」、10月には「札幌国際短編映画祭」で上映される予定。【日下部元美】



アイヌ民族関連報道クリップ

<https://blog.goo.ne.jp/ainunews/e/327f8f2268b1cf4e36d674d94afd8e09>

花崎皋平さん「今後も書き続ける」旭川で小熊秀雄賞贈呈式(北海道新聞)2010-05-23 07:26:00

目録を受け取り笑顔を見せる花崎さん

【旭川】旭川ゆかりの詩人にちなみ、優れた現代詩集に贈られる第43回小熊秀雄賞(市民実行委主催)の贈呈式が22日、旭川市内で行われ、受賞した花崎皋平(はなざきこうへい)さん(78)＝小樽在住＝に正賞の「詩人の椅子(いす)」の目録などが手渡された。

受賞作の長編物語詩「アイヌモシリの風に吹かれて」(小樽詩話会)は、アイヌ民族の歴史を自分史と重ね、平易な言葉と落ち着いた表現で描いた点が評価され、応募作78点から選ばれた。

実行委の松田忠男会長から正賞目録と副賞30万円を受け取った花崎さんは、受賞作の一部を朗読した後、「人生の恩人である有珠のコタンの漁師との交流からできた作品。受賞を契機に、これからも詩や社会哲学を書き続けていきたい」と述べた。

